

2011年 代議員選挙 候補者リスト

候補者名	所属機関	抱負
------	------	----

※所属機関は、候補受付時現在のものとする。

宇宙惑星科学

大村 善治	京都大学	地球惑星科学連合の事務局体制および財政基盤の強化を図り、連合大会の運営を安定化させて、長期的な地球惑星科学の発展を目指します。
渡部 潤一	国立天文台	引き続き惑星科学の発展と、これまでの理事会の不適切な方針へ、適正な意見を述べるためにとどまりたいと考える。
中村 正人	宇宙科学研究所	宇宙科学の転換期において、微力ながら地球惑星科学連合の中で力を尽くしたい。
坂本 尚義	北海道大学	物質科学的知見に基づく宇宙惑星科学の発展に力を入れたい。
藤井 良一	名古屋大学	宇宙科学の発展、多くの学術分野が加盟している連合の利点を生かした隣接分野との連携・協力の促進、連合の国際的求心力の強化に微力ながら貢献したい。
藤本 正樹	宇宙科学研究所	世界との連携を梃子に日本の惑星探査を軌道にのせ、それによって惑星科学が健全にドライブされるよう、貢献します。
小嶋 浩嗣	京都大学	これまで連合の個人会員として活動してきましたが、今回、代議員選挙に立候補するにあたり、自分の研究分野にとどまらず広く地球惑星科学全般の発展に貢献できるよう連合の運営に参画していきたいと思えます。
佐々木 晶	国立天文台	私は東日本大震災の被災県民として、地球惑星科学の役割と責任の大きさを実感した。科学成果の追求とともに、その社会への還元を促進する役割を連合は担うべきである。また、連合の国際的な発信力向上に貢献したい。
渡邊 誠一郎	名古屋大学	代議員制度改革。
田近 英一	東京大学	これまで、日本地球惑星科学連合の広報普及活動を中心に連合の運営にたずさわってまいりました。今後も引き続き、わが国の地球惑星科学分野全体の発展と普及のために、全力を尽くす所存です。
長妻 努	情報通信研究機構	宇宙惑星科学セクションの発展のために、微力ながら頑張りたいと思えます。
中村 昭子	神戸大学	地方在住研究者の立場で、連合という大きな組織の健全さと影響力とを意識しながら運営に参加したいと思えます。

## 2011年 代議員選挙 候補者リスト

高橋 幸弘	北海道大学	メンバーひとりひとりにとって参加することが価値のあるものになるよう、連合だからこそ実現できる、国際的にみても存在感のある、満足度の高い大会を創っていきたいと考えております。
永原 裕子	東京大学	日本の地球惑星科学、とりわけ、宇宙惑星科学の発展のため尽力いたします。そのため、個別の大学や狭い分野を超えた学問、人間の連携・協力を大切にしたいと思います。
中本 泰史	東京工業大学	宇宙惑星科学および地球惑星科学の進展に対し、自ら取り組む研究・教育活動はもちろんですが、コミュニティを支えるという点においても、少しでも寄与できれば幸いです。
海老原 充	首都大学東京	連合の次の発展の大きな柱は国際化の促進だと思われる。特に、アジア、およびオセアニアの国々との連携を促進すべきである。その様な活動を積極的にすすめたい。

### 大気海洋・環境科学

知北 和久	北海道大学	この2年間、ボード構成員であったが、法人化後の連合の組織・運営体制には、まだ、議論の余地がある。このため、さらに2年間、代議員として、よりよい体制作りには貢献したい。
河宮 未知生	海洋研究開発機構	2期目の立候補です。1期目の活動を通じ連合の発展に貢献したいという思いが高まりました。分野横断的研究を推進し、参加学協会との相補的発展に寄与したいと考えています。
嶋田 純	熊本大学	嶋田純教授は熊本の地下水の持続的管理について精力的に研究しており、また、多くの水関連学会で各種委員を歴任されています。これらの経験はJPGUの代議員としてふさわしいため、ここに推薦します。
中島 映至	東京大学	大気海洋・環境セクションプレジデントを務めてきましたが、これまでの立ち上げ期間でやり残したことがあると感じています。セクション名検討、大型研究ロードマップ策定等の諸問題に取り組みたいです。
鈴木 啓助	信州大学	私は、鈴木啓助氏を日本地球惑星科学連合の代議員候補に推薦いたします。彼は、優秀な雪氷科学者であるとともに、日本雪氷学会では学術委員長として学会活動に多大な貢献をしております。よって彼を推薦いたします。
池田 元美	北海道大学	総合科学としての地球環境科学の創造に向けて、大学勤務時代に培った広い視点を基盤に、放射能汚染など新たに顕在化した個別の重要課題に取り組むことにより、大気・海洋・環境科学専門家の協力体制を築く
真木 雅之	防災科学技術研究所	真木雅之氏はレーダ水文学・気象学を専門とし、レーダーによる災害監視に卓越した業績を持つ。自然災害研究は地球惑星科学、特に大気海洋・環境科学に対する時代の要請であり、JpGUの運営に大きく貢献できる。
花輪 公雄	東北大学	研究の一層の発展のためには、個別分野を超えた連携が必要不可欠な時代です。本連合はそのための最適なプラットフォームです。連合の発展のため、努力いたします。

2011年 代議員選挙 候補者リスト

佐藤 薫	東京大学	前年に引き続き、気象学会理事、学術会議連携会員の立場を生かし、日本地球惑星科学連合と気象学会のリエゾン役を務め、連合における大気科学を盛り上げていきたいと思っています。よろしくお願いします。
杉田 倫明	筑波大学	杉田倫明氏は、水文・水資源学会の理事をつとめ、また水文学に関するわが国を代表する研究者であることから、本会の活動に大きく寄与することが期待される。以上より、本会代議員に推薦する。
津田 敏隆	京都大学	自然現象の科学的理解を基礎に、災害や持続的発展可能性等への社会還元も重視する。連合と参加学会が共存・共栄することに留意しつつ、講演会および出版事業をはじめ、連合の企画・運営に貢献したい。
立川 康人	京都大学	降雨流出現象の予測とモデリングおよび水災害の軽減・防止の観点から、本会の活動に寄与したい。
近藤 豊	東京大学	連合は、地球惑星科学分野の研究の中核的組織として大きく発展しつつあります。多年の研究経験を生かし、連合組織・大会・研究計画が多くの研究者にとって、より重要で魅力的なものになるよう貢献していきます。
原田 尚美	海洋研究開発機構	日本地球惑星科学連合でセッションコンビーナーとして活動してきたが、常々海洋学分野のセッションの少なさが気になっていた。異分野との相互作用が期待できる連合にてこの分野の積極的な参加を促す活動をしたい。
田中 博	筑波大学	大気海洋・環境区分における日本気象学会の役割を十分に果たすために、気象学会常任理事をこれまでに17年務めた実績を生かして、責任ある意見を述べ、正しい判断を下し、当法人を発展させるために立候補したい。
多田 隆治	東京大学	21世紀は、地球環境危機との戦いの時代です。私は、このような環境危機を招いた責任の一端を担う世代として、少しでも問題の本質を世に伝え、その解決を志す若者の育成に微力でも貢献できればと立候補いたしました。
北 和之	茨城大学	これまで連合大会運営副委員長として、微力を尽くしてきました。これからも連合大会を通じて、大気海洋陸水・環境を含む地球惑星科学の幅広い活動を活発にしていくお手伝いをできればと思います。
蒲生 俊敬	東京大学	蒲生教授は我が国の海洋化学における第1級の研究者であり海洋学会賞などを受賞している。また地球化学会会長を歴任し学会の運営においても十分な経験を有する。代議員として連合の発展に寄与することは疑いない。
吉田 尚弘	東京工業大学	吉田氏の研究対象はセクション同様、空間的には海洋底から成層圏まで、時間的には地球初期から現在までに亘る。生物地球化学的な物質循環を軸に、他分野の研究者の総力を結集するセクション・連合運営が期待される。
大手 信人	東京大学	大手信人氏は、陸域の水・物質循環に関する研究者で、国際的に高い評価をうけている。地球惑星科学連合の利点を活かした分野横断的研究コミュニティの形成が期待できる。
角皆 潤	北海道大学	「社会貢献」を存在意義の前面に押し出して出発した本セッションの価値観に強い危惧を覚えました。学術性を重視し、また観測を大切にする本来の大気海洋科学への軌道修正に貢献出来ればと思います。

2011年 代議員選挙 候補者リスト

日比谷 紀之	東京大学	地球惑星科学連合と海洋学会との関係がより強固なものとなるよう尽力していきたいと思います。
村山 泰啓	情報通信研究機構	2010年大会はプログラム委員長としてセクション体制を立ち上げ、現在はセクション担当委員です。また ICSU-WDS 委員として WDC 体制や学術データ保全などを通じて連合活動向上に寄与したいと思います。
山敷 庸亮	京都大学	水文分野英文ジャーナル HRL の立ち上げ、海洋・水文モデルの融合、河川を通じた海洋への放射性核種移動の観測研究、「陸域海域相互作用」セッションの2年連続開催など代議員にふさわしい活動実績がある。
沖 理子	宇宙航空研究開発機構	発見的な基礎研究から、地球環境監視・予測などの応用的研究に至るまで地球惑星科学の発展に不可欠な宇宙からの地球観測について、その利活用の推進や普及、将来の衛星計画に対する学会からの提言等に貢献したい。

地球人間圏科学

奥村 晃史	広島大学	自然災害と環境変動の近未来予測と適切な対策の検討のための実証的な地球惑星科学研究を第四紀学・自然地理学の立場から科学的な厳密さをもって推進し、その成果を日本と世界の学界と社会に普及させるために全力を尽くします。
水見山 幸夫	北海道教育大学	深刻化する地球環境問題や大規模自然災害に地球惑星科学が取り組み成果をあげるには、自然科学研究と人文社会科学研究それに教育研究の協働が重要である。日本学術会議地球人間圏分科会と連携し、それを推進したい。
安成 哲三	名古屋大学	地球システムと人間圏の相互作用は、環境問題、災害問題なども含め、持続可能な社会を考える上で、今後非常に重要になる。そのための新たな学問を構築を目指すべく、地球人間圏科学の活性化を目指したい。
佐竹 健治	東京大学	東日本大震災では、地震学・津波学の最新の研究成果が防災に生かされなかった。不完全であってもその時点での最新の知見をどうやって防災に生かせばよいか考えていきたい。アジアを中心とする国際協力にも貢献したい。
渡部 芳夫	産業技術総合研究所	人間生活圏に含まれる地質表層現象は、表流水や大気現象に密接に関連した現象の科学を扱わなければならない、連合においてこれらの理解が進むように努力します。
須貝 俊彦	東京大学	第四紀の発達史地形学・地理学を基礎に、自然災害や環境変動に強いサステナブルな社会の実現に向けて、フィールドを大切にしたい。次世代教育と地球惑星科学連合環境災害対応委員会活動に尽力します。
春山 成子	三重大学	地球人間圏科学の研究の推進と諸外国の研究者とのネットワークを強めるために日本地球惑星科学連合大会のみならずIGU、IUGGなどとの連携をはかりたい。また、若手研究者の育成にも力を入れたい。
海津 正倫	奈良大学	自らの学問的経験をふまえて科学と人間活動との調和を目指したいと考えている。

2011年 代議員選挙 候補者リスト

小口 高	東京大学	私は地形学と地理情報科学を専門とし、地球惑星科学連合では理事、学術出版委員会の副委員長、GIS セッションのコンビーナ担当してきました。地球人間圏セクションをベースに連合の発展に寄与したいと希望しております。
松本 淳	首都大学東京	環境災害委員長として大震災や頻発する洪水被害に直面し、人間と地球との関係のあり方を深く追求する必要性を痛感しています。よりよい地球社会の未来のために、微力を尽くさせていただく所存です。
碓井 照子	奈良大学	地理学と地理教育の立場から地球惑星科学連合の推進に寄与し GIS を利活用した地球惑星科学の新しい発展に貢献したい。
荒井 良雄	東京大学	荒井氏は日本地理学会の理事長であり、地理学の最大の学会と連携を取っていただけるのを期待して強く推薦いたします。
島津 弘	立正大学	地球惑星科学連合における教育問題検討委員、プログラム委員、コンビーナーの経験や地形学、地理学の専門を活かし、災害、環境、教育への地球人間圏セクションからの情報発信に貢献していきたいと思ひます。
鈴木 毅彦	首都大学東京	これまでの第四紀学関係セッションでのコンビーナー経験をはじめ、自然地理学・第四紀学・火山学の幅広い専門の立場から本連合の発展に貢献したいと思ひます。
坂本 正徳	国学院大学	情報公開および地学教育に尽力いたします。
小口 千明	埼玉大学	私自身、任期付き職3つを経てパーマネント職に就きました。出産・育児の時期と重なりましたが、周囲の理解により研究活動を継続できました。その経験を、研究者を目指す方々への支援に役立てたいと思っております。

固体地球科学

浜野 洋三	海洋研究開発機構	原点に立ち戻って、地球科学の様々な分野からの連合大会への参加者を倍増することをめざす。
大谷 栄治	東北大学	固体地球科学のセッションの活動を活性化し、国際的な連携と協力をさらに進め、連合の国際発信力を強化し、世界の固体地球科学においてイニシアティブを発揮できるよう連合をさらに強化・発展させたいと思ひます。
竹村 恵二	京都大学	地球表層における多圏相互作用の研究は地球と人類の将来を展望するために重要である。その進展を、固体圏の各種堆積物の高精度分解能での分析・解析に基づき、国際的な協力関係の下、第四紀学的観点から図る。
ウォリス サイモン	名古屋大学	引き続き学会の国際交流事業に貢献したいと考えています。
歌田 久司	東京大学	最近やや停滞感の感じられる固体地球科学分野に、研究の活性化と新しい発展がもたらされるよう、微力ながら力を尽くしたいと思ひます。

2011年 代議員選挙 候補者リスト

吾妻 崇	産業技術総合研究所	地球惑星科学連合と学協会との連携を深めるとともに、連合の活動がさらに国際的になるようにしていきたい。
大坪 俊通	一橋大学	大坪氏は、高精度宇宙測地技術の開発、特に精密軌道決定を専門とし、測地学から惑星科学・宇宙科学に広がる研究を行っている。固体地球分野と宇宙開発とをつなぐ役割を果たしながら、連合の発展に貢献すると期待できる。
古屋 正人	北海道大学	古屋氏は、自身、IAG の Guy Bomford 賞を受賞されており、InSAR のユーザーグループ PIXEL の創設でコミュニティ育成に尽くされ、また、今期の代議員でもあり、更なる活躍が期待できる。
田部井 隆雄	高知大学	田部井氏は、国内はもとより、インドネシアなど諸外国で GPS 観測を積極的に実施し、テクトニクスの研究に成果を挙げる共に、国際貢献にも尽くされている。また、今期の代議員でもあり、更なる活躍が期待できる。
田中 愛幸	東京大学	田中氏は、地球の粘弾性変形の理論的研究やそれを実証するための重力測定など、観測、理論双方で精力的に研究を実践している。また、プログラム委員として JpGU の活動にも貢献しており、代議員として適任である。
藤井 敏嗣	環境防災総合政策研究機構	藤井敏嗣さんは固体地球科学の初代セッションプレジデントとして活躍されています。今後とも、引き続き、固体地球科学および防災科学の面からも日本地球惑星科学連合の発展に大きな貢献が期待できます。
成瀬 元	千葉大学	日本地球惑星科学連合の発展のため、微力ながら貢献させていただきたいと思い、立候補いたします。特に、顕彰制度(学生優秀発表賞など)をより充実させていきたいと考えております。
中田 節也	東京大学	中田節也さんは火山学会会長および IAVCEI プレジデントとして世界の火山学の発展に尽くされており、海外も含め火山防災でも多大な貢献をされています。日本地球惑星科学連合の発展のために中田さんの尽力が必要です。
山崎 俊嗣	産業技術総合研究所	これまで学会・学会誌の運営、日本地球掘削科学コンソーシアムの運営などに携わってきた経験を生かして、日本地球惑星科学連合の発展に貢献したいと思います。
西村 裕一	北海道大学	東北の震災では、連合は、後に声明を発表するだけでなく、直後から主体的に情報を収集し発信する責任があった。学会が具体的にどう連動できるか、この際検討すべきである。今後、こうした議論を進められればと思う。
木村 学	東京大学	連合の一層の発展のために微力ながら働きたいと思います。
宮下 純夫	新潟大学	東日本大震災は、地球科学の重要性を改めて示す場となった。基礎的研究の推進とともに、地球科学の重要性を社会に分かりやすく発信することなどに力を尽くしたい。
古村 孝志	東京大学	JpGU の 48 の加盟学協会の枠組みを越えた、地球惑星科学コミュニティ全体の活性化を目指した JpGU の活動に参画します。早期の公益社団法人化をめざし、そして社団法人の安定した運営のための組織づくりに協力します。

2011年 代議員選挙 候補者リスト

川勝 均	東京大学	地震学および固体地球科学の健全な発展・振興に貢献したい。
加藤 照之	東京大学	日本地震学会と日本地球惑星科学連合の橋渡しをする役目を担い、日本の固体地球科学の研究の発展に微力を尽くしたいと思います。
公文 富士夫	信州大学	第四紀の古気候学を研究する立場から、地質科学や気候学、環境科学分野の交流と学術の発展を図りたい。
入船 徹男	愛媛大学	入船徹男氏は地方大学においてグローバル COE 拠点のリーダーを務めるとともに、国際高圧力学会(AIRAPT)役員を務めるなど、国際的にも活躍しており、連合の国際化また地方の声を反映する上でも重要な人材である。
松澤 暢	東北大学	松澤氏は、沈み込み帯における地震波速度・減衰構造およびプレート境界型地震の発生過程解明の研究のみならず研究成果の社会への発信に積極的に務めており、代議員として強く推薦いたします。
谷岡 勇市郎	北海道大学	谷岡氏は、プレート境界型地震およびそれによって発生する津波研究で知られ、その研究成果を社会に積極的に発信しており、代議員として強く推薦いたします。
宮崎 一博	産業技術総合研究所	地質学・岩石学の研究を発展させる立場から連合大会の運営に貢献したい。
鈴木 勝彦	海洋研究開発機構	長期的な視点を持ちながら、連合が面する諸処の問題に対し、迅速で的確な行動ができるように、力を尽くしたいと思います。また、連合の活動を広く知っていただくための広報活動にも力を入れたいと考えています。よろしく願います。
石渡 明	東北大学	地質学・岩石学を専門とする立場から、そして今回の東日本大震災の被災者としての立場から、地惑連合の活動に貢献したい。
岩森 光	東京工業大学	固体地球科学のさらなる発展のため、連合理事および固体地球科学サイエンスセッションボードメンバーとしての経験を生かし、微力ながら力を尽くす所存です。
鍵 裕之	東京大学	地球惑星科学の振興のために、微力ながら努力する所存です。
金嶋 聰	九州大学	地球惑星科学連合は、多様な分野の研究者が交流する場として重要な役割を果たしています。今後この連合をさらに活性化させ、地球惑星科学が一層魅力的な学問となるためにお役に立てればと思います。
深畑 幸俊	京都大学	分野横断型のセッション(プレート収束帯における地殻変形運動の統合的理解)を毎年開催すると共に現在代議員も務めています。地球物理学と地質学と自然地理学の融合を目指して引き続き努力していきたいと思っています。

2011年 代議員選挙 候補者リスト

地球生命科学		
西 弘嗣	東北大学	震災の影響による予算削減など、地球科学の研究を取り巻く環境は厳しいものがありますが、学会の発展のため皆様のお役に立てるように全力で努力いたします。
小林 憲正	横浜国立大学	アストロバイオロジーなどの切り口から、他のセクションの方や非会員の方に、地球生命科学セクションのセッションや活動に参加してもらえるようにしていきたいと思います。
北里 洋	海洋研究開発機構	地球惑星科学と生命科学の融合領域である地球生命科学を確立し、強化する。
山岸 明彦	東京薬科大学	アストロバイオロジーや極限環境微生物学は、近年、地球惑星科学における重要性をましている。こうした分野だけでなく、地球生命科学、地球惑星科学全体の発展のための努力を行いたいと思う。
北村 晃寿	静岡大学	地球科学の発展のために務める。
川幡 穂高	東京大学	生命の存在は地球の大きな特徴で環境の進化にも貢献してきました。固体地球、表層環境、生物圏の知識を深化、発展、融合して、惑星での生命圏の存在という課題に新しいパラダイムに到達すべく努力したいと思います。
真鍋 真	国立科学博物館	地球惑星科学の様々な分野の連携が促進されるよう、微力ながらお手伝いが出来ればと思っています。
遠藤 一佳	東京大学	地球科学と生命科学の橋渡しをすべくベストを尽くします。
大河内 直彦	海洋研究開発機構	前回に引き続き、地球生命科学の発展のために尽力したいと思います。
井龍 康文	名古屋大学	日本地球惑星科学連合の代議員として、日本の地球惑星科学の発展に尽力したいと思います。
掛川 武	東北大学大学院	生命と地球の関係に対する理解は、長い時間軸の中での地球進化を考える上で重要です。この分野が日本の地球科学の中でマイノリティーであり、ますますの発展が必要です。発展させるようにがんばります。
高橋 嘉夫	広島大学	放射光分析などを利用しながら、水-岩石相互作用、環境微生物学、環境化学などを研究しています。より多くの関連分野の研究者が参加し充実した連合になることを目指した努力をしていきたいと思っています。

2011年 代議員選挙 候補者リスト

地球惑星総合		
瀧上 豊	関東学園大学	地学オリンピック日本委員会や教育問題検討委員会の活動などを通じて、地球科学教育の普及に貢献したいと思います。
中川 貴司	海洋研究開発機構	今まで、微力ながら、裏方で連合大会運営などのお手伝いをしてきたのですが、今後は裏方から表にでて、科学面ならびに連合の運営面でさらなる協力をさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。
芝川 明義	大阪府立花園高等学校	前回到続き引き続き立候補しました 2012年度より理科で新教育課程が始まり、高校での地学教育の新しい出発となります より一層の発展のために努力をしていきたいと思ひます
佐野 有司	東京大学	候補者は宇宙から海洋にいたる幅広い研究対象にわたり優れた研究業績を示す地球化学者であることから、地球惑星科学総合セッションで重要な役割を果たすことが期待される。
熊谷 英憲	海洋研究開発機構	地球科学のあり方が問われている今、観測や測定といった確かな根拠を得ることの重要性を踏まえ、地球科学的知見を社会へ活かす方途についていささかなりとも貢献したいと考えています。
矢島 道子	地質情報整備・活用機構	これまでの教育・研究研究を地球惑星科学のために尽くしたいと思います。
山本 高司	川崎地質株式会社	地質調査業界と日本地球惑星科学連合との情報の連絡役として立候補しました。地質学会の支部幹部として地質学の社会貢献を目標に活動してきました。地球環境と防災を考える上で地球科学と産業が一体となった活動が必要だと思ひます。
宮嶋 敏	埼玉県立深谷第一高等学校	教育問題検討委員会・教育課程小委員会での活動を通して、初等中等教育における地学教育の発展を目指します。
畠山 正恒	聖光学院中学高等学校	引き続き微力ながら連合の活動に尽力したいと思います。
阿部 國廣	無し	東日本大震災、紀伊半島豪雨災害は改めて災害列島日本の姿を国民の前にさらけ出した。地球惑星科学の教育は児童、生徒、学生、教員全てに求められている。地球惑星科学の教育の充実を強く訴える。
古宇田 亮一	産業技術総合研究所	地球惑星科学の基礎的データ・資料を、更に多くの方が容易に閲覧・ダウンロード可能とするため、JpGUと共に関係機関に積極的に働きかけ、良質なデータのインターネット上の公開促進をはかりたい。
横山 広美	東京大学	横山広美さんは、科学コミュニケーション・科学広報がご専門で、東大理学部広報活動を担っておられます。その経験と専門知識を活かし、日本地球惑星科学連合の広報普及活動に尽力していただけることを期待します。